



事務事業名	生活支援体制整備事業	事務事業No.	10602000988	所属課	高齢福祉課
-------	------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
国では2025年を目途に地域包括ケアシステムを構築することを目指している。同様の世代が75歳を迎えるころには、サービスを提供する専門職が不足すると見込まれている。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう周囲の見守りや高齢者自身の社会参加などの場の整備など生活支援が欠かせないものとなっている。	
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	
特にない	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	市民や関係団体に対し、事業の周知が必要であるが、区長や民生委員等を通じて周知していくことが必須である。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 地域の課題や不足しているサービスの把握、その解決に向けて活動することは高齢者福祉の推進につながる。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 地域包括ケアシステムの構築は国の施策である。	
有効性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 地域住民への事業の周知、市関係部署、関係機関と連携を取り事業の必要性を訴えていくことで成果の向上につながる。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 廃止・休止することで地域包括ケアシステム構築の遅れにつながる。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はなく、統廃合はできない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 事業に必要な費用は、必要最小経費で行っている。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市民のための支え合いや、不足するサービス等を話し合い、開発する事業であることより、公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	一般市民と介護医療専門職に対して、生活支援協議体事業と市の現状説明会を合計19回、延662名に対して行い、アンケート式で「事業への興味」とそのための勉強会参加意思を回答してもらった。そこで、常磐大学池田先生にファシリテーターを依頼し、勉強会を3回開催で計画し、参加者同士のグループワークで地域のこれからについて考えることを行った。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		（複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下			×																				
まだ勉強会開催途中であるため、現在参加している市民の今後の活動への継続性が不確定である。また、勉強会の意図にあるように、参加者自身が「地域の課題」→「市民協働」→「地域共生社会」へと自覚し、活動につなげることが出来るかどうか、行政への依存にならないように出来るかどうか課題である。		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続（現状維持） C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> A B:継続（改革改善を行う） D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>